

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2744 号

Risk factors for alcohol consumption after starting assisted reproductive technology treatment among Japanese women: Japan-Female Employment and Mental health in Assisted reproductive technology (J-FEMA) study

不妊治療中の女性における飲酒習慣の危険因子

佐藤 真美子 (さとう まみこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、日本の4つの不妊治療クリニックに通院する女性患者を対象とし、生殖補助医療 (ART) 治療中のアルコール摂取に関連するリスク因子を明らかにした。

【新規性、創造性】 アルコールの不適切な摂取は妊娠の維持や胎児へ悪影響を与え、不妊治療、特に体外受精を含む生殖補助医療 (ART: artificial reproductive technology) の転機に悪影響を及ぼすと報告されている。飲酒習慣は周産期の有害事象および不妊の修正可能な危険因子であるにもかかわらず、不妊治療中の日本人女性の飲酒習慣についての疫学的知見はない。本研究の知見は不妊治療を受ける女性患者の習慣的飲酒を改善し、予防するための政策を形成する一助になると考える。

【方法・研究倫理】 本研究は、不妊治療専門の外来に通院する女性患者を対象に、自記式質問紙 (調査票) を用いた疫学研究である。年齢、学歴、パートナーの飲酒状況、不妊期間、体外受精の回数、出産歴、K6 スコア、日本版不眠症重症度指標スコア、雇用形態、企業規模などに関する設問を含む調査票への回答が得られた 1,727 人の女性患者のうち、ART 治療中の 1,017 人の女性患者を本研究の分析対象とした。また、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会により承認済 (順大医倫第 2019056 号) である。

【学術的意義】 多変量ロジスティック回帰分析を用いて ART 治療中の習慣的飲酒 (2 合/週以上と定義) に対するリスク因子を検討した結果、習慣的飲酒者の多変量調整オッズ比 (95%信頼区間) は、35 歳未満に対し 35 歳以上で 2.27 (0.99-5.21)、パートナーの飲酒習慣なしに対してありで 4.26 (1.98-9.16)、出産歴がありに対してなしで 1.84 (1.08-3.12)、非就労者に対して就労者で 1.77 (1.00-3.14) であった。

【考察・今後の発展】 ART 治療中の女性のうち、約 15%の女性が 2 合/週以上の飲酒習慣があり、その要因として、高齢、パートナーの飲酒習慣がある、未婚産婦、就労者が示唆された。ART 治療を受けている女性だけでなく、そのパートナーや職場に対しても飲酒教育を奨励することは、健康的な妊娠・出産にとって重要である。ART 治療中の女性の飲酒行動と本研究で同定された因子との因果関係を明らかにするためには、さらなる縦断的研究が必要である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。